

イエス様をメシア・生ける 神の子と告白する信仰

マタイ16章13～20節
2022年2月20日
松田 基子 師

パウロは、ローマ書、11章33節で、
「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いこと
か。だれが神の定めを究め尽くし、神の道
を理解し尽くせよう」

と、神様に対する感歎の声を挙げています。
神様の御計画は、実に図り難く、人間の思いを
超えており、それは人間の傲慢を砕く、人間の
考えを、ひっくり返すものでした。

さて、神様は、アブラハム、モーセ、ダビデと
の約束の通り、イスラエルの中に、メシアを誕生
させられましたが、神様は、御子をメシアとして、
誕生させられました。真のメシアは、人類の罪
を贖うことが出来る、神の御子でなければならな
いことは、神様にしか分かりませんでした。
神様は、その御子を、あえて、信仰は篤くとも、
無名の乙女、マリアの胎に、聖霊に依って宿ら
せ、誕生させられました。神の御子は、イエスと
名付けられ、愛と信仰篤き、ヨセフとマリアを親と
して育てられました。

人の子として、生きる悩み、苦しみを知り、悲し
む人の友と成られました。天の父なる神様との、
交わりで、常に神様の御心に従い、行動されま
した。神様の御心を伝える、公生涯に入られる
と、ガリラヤ湖畔の町、カファルナウムに移られ、
ガリラヤ湖の漁師、シモン、アンデレ兄弟、ヤコ
ブ、ヨハネ兄弟を、弟子に招いて、彼らを連れて
伝道されました。後に、12人をお選びになりま
した。イエス様は、律法学者の様にではなく、
権威ある者として、教えられました。

イエス様の言葉には、愛と権威がありました。
当時、社会から、汚れた者として、排除され、誰
からも顧みられる事の無かった人々を愛されま
した。イエス様は、マタイ9章13節で、
「わたしが来たのは、正しい人を招くため
ではなく、罪人を招くためである」

と言って、徴税人のマタイを弟子にされました。
マタイだけではなく、律法社会からは、律法を守
れない罪人という、烙印を押され排除された、徴
税人、遊女、日雇い労働者、病人、身体の不自由
な人達に対して、彼らの上に注がれている、
神様の愛を語られました。

イエス様は、安息日であっても、そこに、苦し
む姿を見られると、癒しの業をなさいました。
イエス様の行動基準は、常に父なる神様の愛の
実現にありました。民衆は、イエス様に心癒さ
れ、神様の愛を感じ、イエス様を慕いました。
ところが、それを不快に思うと共に、危険視した
人々が居ました。それは律法社会の指導者で
ある、律法学者達や、ファリサイ派の人々でした。
彼らは、

『自分たちは、神様に従う律法社会を
支える、正統派だ』

と自負していました。

『自分たちこそ、正しい生き方をしている』
と思い上がっていました。

彼らにとって、イエス様の生き方は、
『安息日違反、罪人との接触など、律法を破
る、律法社会を壊す、不届き者、危険な存
在』

に思われました。イエス様はそんな彼らを、
マタイ12章7節で、

「わたしが求めるのは、憐れみであって、
犠牲ではない、という言葉の意味を知って
居れば、」

と、彼らが神様の言葉を聞こうとはせず、悟ろうと
もしないことを指摘されました。

イエス様は、律法学者たちや、ファリサイ派の
人達の、反感、非難を受けながらも、御言葉を
求めて来る大勢の人々に、神様の御心を語られ
癒しを求めて来る人々を癒されました。イエス様
の行かれる所へ、人々は集まり、付いてきました。
その人達は殆どが、その日の食事にも事欠く、
貧しい人達でした。イエス様はその事を良くご
存知で、彼らを空腹のまま帰らせてはならないと、
パンの奇跡を起こして、食事を与えられました。
また、数々の奇跡を起こされました。イエス様
は、この様にして、宣教に立たれてから、3年余

り、12人の弟子を連れて、ガリラヤ地方を中心に、神様の御心を教え、御業を進められました。

イエス様はご自分の歩むべき道を、自覚なさっていました。イエス様はご自身の使命を見据えられると、弟子達を、如何に良き働き人にするかを、考えておられました。弟子達とじっくり向き合える時間と、場所が必要でした。そこで、イエス様は、ガリラヤ湖を離れ、北へ40キロ、ヘルモン山の麓にある町、フィリポ・カイサリアへ、12弟子を連れて行かれました。その町は、ヘロデ大王の子、フィリポが、皇帝を讃えて、紀元前2年頃、ヘレニズム都市に再建して、自分の領地の中心とした所です。

地中海沿岸には、ローマ軍の駐屯地として、既に、カイサリアがあり、その地と区別する為に、命名者のフィリポを冠して、フィリポ・カイサリアと呼びました。ヘルモン山の麓で、岩石がそびえています。ヨルダン川の水源があり、緑も豊かです。イエス様が弟子達と、じっくり語り合われるのに、適した場所でした。イエス様と弟子達はくつろいでいました。そこでイエス様は、弟子達に、マタイ16章13節で、質問されました。

「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになりました。

マタイは、イエス様が自称として使われた「人の子」を使っています。他の福音書では、はっきりと、

「わたしのことを、何者だと言っているか」と聞いておられます。イエス様は、弟子達が、ご自身に対して、

『どんな信仰を抱いて居るのか』を知ろうとなさったのですが、先ずは、世間の考えを、お尋ねになりました。

弟子達は、自分たちが耳にしていることを、報告しました。14節に、先ず、**洗礼者ヨハネ**の名前が挙がりました。イエス様はその公生涯に立たれるに当たって、人類の罪を贖う、贖い主として、罪人の側に立つために、罪人の列に並んで、洗礼者ヨハネから、洗礼を受けられました。ヨハネはその後、領主ヘロデ・アンティパスが、

兄弟、フィリポの妻、ヘロディアを妻にしたことについて、

「その結婚は、律法で許されていない」と糾弾したため、投獄され、ヘロディアの恨みを買って、斬首されてしまいました。彼を殺したアンティパスは、イエス様の評判を聞いて、家来達に、マタイ、14章2節で、

「あれは**洗礼者ヨハネ**だ。死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている」

と言っています。洗礼者ヨハネの記憶は、人々の心に、まだ新しく、アンティパスばかりでなく、民衆の中にもイエス様について、

「**洗礼者ヨハネの再来**」だと考える人は、多くいました。

次に上がったのは、**エリア**の名前です。エリアは、旧約聖書を代表する預言者です。カルメル山で、偶像神バアルの預言者、450人を相手に、唯一人、

「**真の神は、どちらの神か**」と、預言者の戦いをしました。エリアは、一人で、真の神様を証して、祭壇に天からの火を呼び下した、偉大な預言者です。エリアの最後は、

『火の車が、天から降ってきて、エリアを乗せ、エリアは天に引き上げられて行きました。』そこから、メシアが出現する前には、天に上げられたエリアが、道備えをするために、再び地上に戻ってくるとの、言い伝えがありました。メシアの出現には先ず、エリアの到来が、無ければなりませんでした。イエス様をその、エリアだと考えた人々も多くいました。

また、別の意見がありました。それは**エレミヤ**です。エレミヤはバビロン捕囚に関わった、偉大な苦悩の、預言者です。後期の預言者の代表です。偽りの預言者達が、

「**ユダ王国は滅びない**」と、楽観的な預言をする中で、エレミヤは亡国を預言しました。民衆の中には、イエス様の鋭い宗教指導者たちへの批判に、エレミヤの姿を見た人も居たでしょう。また、他に

「**預言者の一人だ**」と言う人もいました。民衆はイエス様に、愛と真

実、大きな力を感じましたが、それはどこまでも偉大な預言者の再来と考え、人間としてのイエス様としてしか、考えられませんでした。

イエス様の本命は、弟子達の、ご自身に対する信仰が、どう言うものかが問題でした。そこで、イエス様は、弟子達一人ひとりを見つめて、15節で、

「それでは、あなた方は、わたしを何者だと言うのか」

とお尋ねになりました。信仰は、

『他人(ひと)が、イエス様の事をどう思っているか。』

では、ありません。自分に問い懸けられていることがらであり、自分の決断の表明です。弟子達の間に、沈黙が続きました。

すると、ペトロが、口を開きました。16節に、

「あなたはメシア、生ける神の子です」

とはっきり告白しました。ペトロは、ガリラヤの漁師でした。善良な市民として、神様に従って生きる事に努めていました。彼は真理を求め人でした。イエス様の招きに、それまでの生活に決別して、イエス様に従いました。弟子として、イエス様に従った3年間で、イエス様の真実に触れることが出来ました。イエス様はどんな人をも愛し、罪を赦し、病を癒し、奇跡を行い、どこまでも、人を愛し抜かれるお方でした。

ペトロは、イエス様の中に、人間以上の神の愛、清さ、真実を感じていました。ペトロは心から成る告白として、

「あなたはメシア、生ける神の子です」

と告白しました。

ところで、当時のユダヤ教に於いても「神の子」という言葉は使われていました。彼らにとって、メシア待望は切実な問題であり、すでにメシアを、

「神の子」

と言う称号で呼んでいました。しかし、それは、神の国に於いて、

『養子にされた神の代理人』

という意味でした。ここで、ペトロは、そういう意味で、イエス様に

「神の子です」

と言ったのではありません。ペトロはこれまで、イエス様の神聖に触れてきました。ペトロは、イエス様が天的な方である事を感じて来ました。

イエス様は、ペトロの、この答えに対して、17節で、

「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。

あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」

と言われました。

〈バル〉と言うのは、〈誰々の子〉と言う意味で、

〈シモン・バルヨナ〉は、〈ヨナの子シモン〉と言う意味です、改まった時の、呼び方です。

〈幸いだ〉と言うのは、

『神様に祝福され、うらやむべき存在だ』と言う意味です。生来の人間の考えとして、イエス様を、神様に近い、優れた存在として、神様が神の子に、養子にされたと考えることはできるでしょう。しかし、**正真正銘の神の御子**と言う存在については、それは神様の霊が注がれ、心が開かれなければ、**悟る事の出来ない世界**でした。

パウロはよく、天からの啓示という言葉を使っていますが、ここで、

「この事を現したのは」

と言う箇所について、岩波訳では、

「啓示した」

と訳されています。つまり、

『神様が明らかにしてくださった』

という事です。ペトロは自分で考え納得して言ったのではなく、上からの示しと、確信が与えられたということです。イエス様は、ペトロのその信仰告白を受けられると、18節に、

「わたしも、言っておく。あなたはペトロ、わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てる」

と言われました。パレスチナ地方において、岩は、特別な意味を持っています。イエス様は山上の説教でも、岩の上に家を建てた人と、砂の上に家を建てた人との、譬え(たとえ)を語られました。洪水が押し寄せて来た時、家が押し流されないためには、不動の岩を、土台とする事

です。この世界にも、何時かは、終末、審判という大洪水がやってきます。そこから救われるためには、イエス・キリストによって、救われる以外に、道はありません。

イエス様は十字架に架かり、人類の罪の贖いをなされ、天国の門が開かれます。そして、ご自身を信じる人々の群れを、教会とされ、そこを天国への門となさるのです。教会とは、イエス・キリスト、神の子メシアとの、信仰告白に立っている、信仰共同体です。その教会について、イエス様は、黄泉の力、即ち、

「死の滅びも、これに対抗出来ない」と言われました。イエス様は、身代わりの十字架に架かり、死んで、黄泉に降られましたが、3日目に死から甦って、死に打ち勝たれました。イエス様と結ばれているならば、肉体の死は通っても、その存在が永遠の滅びに引き込まれて行くことはないのです。永遠の滅びに渡されることなく、イエス様が、ご自身に信頼し、信じる者の存在を、天の御国まで、導いて下さるのです。その大きな祝福を、イエス様は教会に与えられました。

19節に、

「わたしはあなたに、この天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる」

と約束して下さいました。

『繋ぐとか、解くとか』

この言葉の意味は、鍵を使って開けたり、閉めたりすることです。イエス様は、その素晴らしい天の国に入る鍵を、ペトロに授けると言われましたが、それはペトロ個人にとという意味ではなく、ペトロと同じ信仰告白をする人々、つまり、教会に授けてくださったのです。教会は、イエス・キリストを頭として、イエス様を、神の子、メシアと告白する、その一点で集められた、信仰共同体です。イエス様はその教会を天国の門とし、開閉の鍵をご自身への信仰告白とされました。

さて、イエス様は、ペトロを初めとして、弟子達から、ご自身が、

「あなたはメシア、生ける神の子です」

との、信仰告白を受けられると、いよいよ、エルサレムに向かって、十字架に向かって歩み始められました。ペトロを初め、弟子達もイエス様に従って行きました。ユダを除いた、11人の弟子達は、イエス様が、十字架に死なれた後、三日目に復活されたイエス様に出会い、イエス様が、真に、

『神の子、真の救い主である』

とことを、その目で見て知る事ができました。復活された、イエス様は、今も生きて、私たちにも、

「あなたたちは私を何者だというのか」

と、お尋ねになっています。私たちは人間的な考え、知識に立つのではなくて、聖霊によってイエス様を、心から信じ、信頼し、自分の全存在を委ねて、

「あなたはメシア、生ける神の子です」

と、心から告白し、教会に連なり、天の国への道を共に歩もうではありませんか。

お祈りを致します。

憐れみ深い天の父なる神様

罪深い私たちは、

『何故、罪無き神の御子が、メシアでなければならないのか』

も分からず、神様の深い愛の御計画も分からずに、罪の中にいた者です。

イエス様が、御救いに招いて下さり、イエス様が、神の子、真の救い主である事を、聖霊に依って分からせて下さり、有難うございます。

教会に連なり、この信仰告白に、全存在を賭けて、天の国に向かって歩む者と成らせて下さい。

救い主、イエス・キリストの
お名前によってお祈りを致します。

アーメン。